

# 来

三年

画数 7  
筆順  
一 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆

ライ  
く ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎ ㇏ ㇐ ㇑ ㇒ ㇓ ㇔ ㇕ ㇖ ㇗ ㇘ ㇙ ㇚ ㇛ ㇜ ㇝ ㇞ ㇟ ㇠ ㇡ ㇢ ㇣ ㇤ ㇥ ㇦ ㇧ ㇨ ㇩ ㇪ ㇫ ㇬ ㇭ ㇮ ㇯ ㇰ ㇱ ㇲ ㇳ ㇴ ㇵ ㇶ ㇷ ㇸ ㇹ ㇺ ㇻ ㇼ ㇽ ㇾ ㇿ

成り立ち



「むぎ」のかたちをあらわした字で、もとは「むぎ」のことをあらわした字でした。

「むぎ」は、中国にむかしからあったものではなくて中央アジアから「来た」ものでした。それで、「むぎ」という字の「来」に、足のいみの「夂」をくわえ「麥」という字をつくって、「くる」といういみをあらわしました。

ところが、「くる」といういみの「麥」が「むぎ」にたがわれて、「むぎ」といういみの「来」が「くる」といういみにつかわれるようになってしまいました。

〔「麦(2416)」の項を参照〕

使い方

▽ぼくたちが、ここにひっこして来たのは、いまから三年まえのことでした。  
▽ももたろうが、おにがしまをめぐっていくと、むこうから犬が、やって来ました。さるも来ました。きじも来ました。

熟語例

- ▽往來(往は、「いく」こと。いったり来たりすること。「車の往來が、はげしい」などといいます。また、人や車がいったり来たりする「どうろ」のことにも、つかいます。)
- ▽來客(ほうもんして来た客。「來客中だから、しずかにしなさい」など)
- ▽未來(「未だ来たらざる」ときのいみで、まだ来ないとき、つまり、これから先のことをいいます。「未來をひらく、科学の力」など)
- ▽來年(ことしのつぎに来る年)
- ▽元來(もともと。はじめから。「元來、わたしは、先生になるのがゆめだった」など)

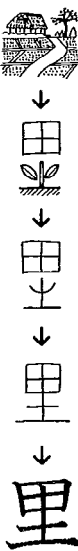
# 里

二年

画数 7  
筆順  
一 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆

リ  
さ と

成り立ち



きちんとくかくされた「田んぼ」のかたちをあらわした「田」と、「土」とをくみあわせてつくった字です。

「田んぼみち」をあらわしたもので、「みちのながさのたぬい」につかわれました。「一里」というみちのながさは「やく四キロメートル」です。

田んぼのみちのりようがわには「いえ」があり、人がすんでいますので、「人のすむところ(さと)」といういみにつかわれるようになりました。

使い方

- ▽ある人里はなれた山おくに、りようしがすんでいます。りようしは、一ぴきの犬とくらしておりました。犬と山をあるいて、えものをしとめては、里の人々のところへいって、こめやきものと、とりかえるのでした。
- ▽むかしは、どこかいても、子だくさんでした。それで、なんにんかの子どもは、里子に出されることがありました。里子を、親にかわってそだてる人を、里親といいました。

熟語例

- ▽里子(よそにあずけて、そだててもらう子ども)
- ▽里帰り(①けっこんした女の人が、はじめて、もともとじぶんの親のいえに帰ること。②むかし、ほうこうしていた人が、お休みをもらって、じぶんのいえに帰ること。)
- ▽村里(いなかの、人があつまつてすんでいるところ)
- ▽人里(人があつまつてくらしているところ)
- ▽郷里(故郷。ふるさと。「郷里のしんるいが、たずねてきた」など)